



中期的な計画の作成にあたっての意見書

奥多摩町は、秩父多摩甲斐国立公園内にあり、東京都のおよそ10分の1という広大な面積でその94%が森林という豊かな自然に囲まれた「首都東京の水源の町」、また「全国一巨樹の多い町」であります。この地域に年間170万人もの観光客が、心身のリフレッシュと安らぎを求め訪れています。

国道を管理する東京都におきましては計画的に道路整備を実施していただいておりますが、当町につながる道路は、国道411号線と国道139号線しかなく、以下の課題を抱えております。

1. 国道411号線について

- 1) 唯一他の自治体とつながる道路は、急峻な地形を縫うように整備された、国道411号と139号のみであり、町民の日々の生活や産業活動を支えているが、地形的にも孤立化しやすい状況である。
- 2) この道路は昭和初期奥多摩湖の建設と同時であるため部分的に耐久力が無く、急傾斜地に作られているため、台風や豪雨また地震などによって崩壊する危険がある。
- 3) 140mmの連続降雨で通行止めとなり、迂回路がないことから町民の日常生活にも支障をきたしている。
- 4) この道路は、奥多摩湖の建設道路であり、中でも境地区以西にある17箇所のトンネルの幅員が5.3mと狭く、高さも低く歩道も無い状況であり、現在の道路構造令にある歩車道の建築限界を確保することができず、大型車のすれ違いも出来ないほか中心線を超えて通行するため、普通車との接触等に危険性を及ぼし、また、歩道も安全柵も無く、トンネル内の照明も暗いため非常に危険な状況である。
- 5) 町内の国道全線では、歩道の未整備箇所も在るほか、道路構造令から逸脱した視距の悪い急カーブの連続により交通事故が年間200件と多発している。
- 6) 現在災害時等の孤立化対策として、国道411号線のバイパス道路「多摩川南岸道路」の建設が20年前から事業化しているが、全体の約15%の完成に留まっている、そのため国費投入により早期全線開通が待たれるところである。

2. 国道139号線について

当町から山梨県小菅村までの道路は奥多摩湖建設時の道路であり、現在の道路構造令に適合しないため道路幅員が狭く、急カーブのため大型車のすれ違いが出来ないほか、車両事故が多発しており、危険な道路と位置付けられている。また、観光シーズンには、中央道の迂回路として、塩山や松姫トンネル開通後の大月方面から圏央道への通過車両の増加が予測される。整備の進んでいる山梨県側からの進入車両が狭く急カーブの町管内国道で、更に事故の危険が懸念される。車両、歩行者を含め安全で安心の道路整備が必要である。

3. 真に必要な道路の整備と財源の確保

これらの課題を解決し、町民が安心して生活を営み、地域産業の振興を図る上で、国道411号及び139号を必要に応じて新規バイパス整備や道路改修、維持補修が真に必要なとなっている。このため、道路特定財源の一般財源化の議論の前に、一刻も早く整備等を進めるべきである。

引続き、地域に必要とされる道路整備を推進するとともに、それに必要となる道路特定財源の堅持を強く要望するものである。

平成19年 5月 8日

国土交通省道路局長 殿

奥多摩町長 河村 文夫

